

表1. スクールバス(一般混乗)便数別利用者調べ

	便		1 便			2 便			3 便			4 便			5 便			6 便								
	時刻表		7:20			11:00			13:35			14:45			15:50			18:20								
	上り(発足行)		7:20			11:00			13:35			14:45			15:50			18:20								
	下り(厚田行)		7:40			11:25			14:00			15:10			16:17			18:45								
総収入	現金		回数券		無料		現金		回数券		無料		現金		回数券		無料		現金		回数券		無料			
	200		100		中学生以下		200		100		中学生以下		200		100		中学生以下		200		100		中学生以下			
内回数券		200		100		中学生以下		200		100		中学生以下		200		100		中学生以下		200		100		中学生以下		
H19年度	214,600		131	25	48	2,066	160	32	113	39	155	21	90	96	59	3	45	512	103	4	39	984	17	11	106	322
	80,000		204		2,066		305		39		266		96		107		512		146		984		134		322	
H20年度	140,600		190	26	28	2,095	125	35	32	17	101	28	23	111	43	9	7	283	75	30	13	852	9	92	0	315
	10,000		244		2,095		192		17		152		111		59		283		118		852		101		315	
H21年度	117,000		145	13	20	1,965	145	19	32	43	95	22	13	41	42	6	2	331	53	28	6	844	8	106	1	245
	6,000		178		1,965		196		43		130		41		50		331		87		844		115		245	

○参考1. 料金表

一般	200円
①身体障害者手帳の交付を受けている者 ②療育手帳の交付を受けている者 ③高校生	100円
中学生以下	無料

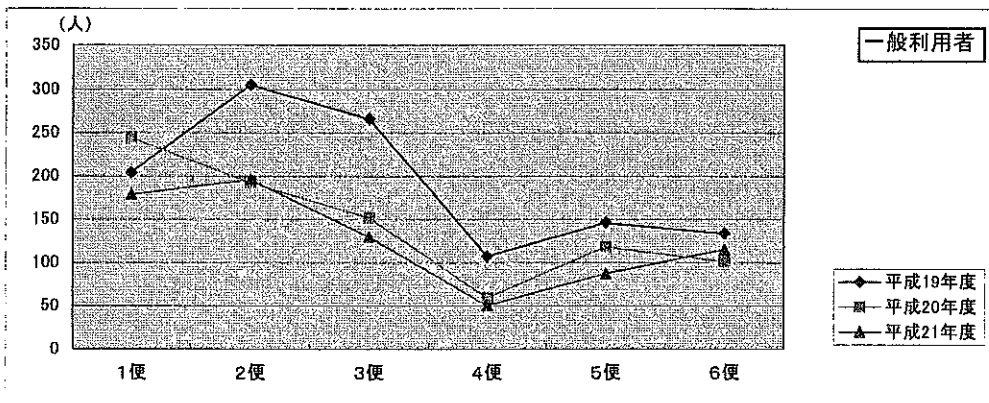
表2. スクールバス(一般混乗)種別利用者数調べ

	一般混乗総計	200円	100円	回数券	予約利用者	無料(中学生以下)
平成19年度	1,162 (人)	625 (人) 53.8%	96 (人) 8.2%	441 (人) 38.0%	29 (人) 2.5%	4,019 (人)
平成20年度	866 (人)	543 (人) 62.7%	220 (人) 25.4%	103 (人) 11.9%	73 (人) 8.4%	3,673 (人)
平成21年度	756 (人)	488 (人) 64.5%	194 (人) 25.7%	74 (人) 9.8%	28 (人) 3.7%	3,469 (人)

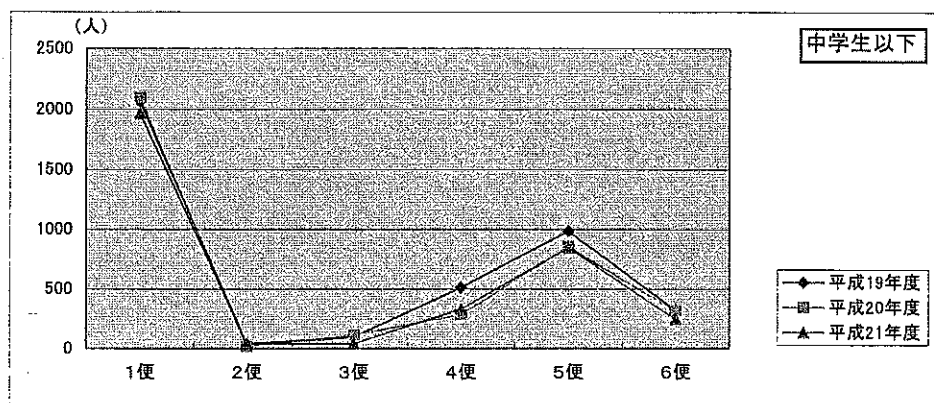
○参考2. 運休日

土曜日、日曜日、
祝日、年末年始
(12月29日～
1月3日)

グラフ 1 (一般利用者)



グラフ 2 (中学生以下)



※平成21年度は全て見込みの数値

① 100円利用者の割合

平成19年度	8.2%	(1,162人中96人)
平成20年度	25.4%	(866人中220人)
平成21年度	25.7%	(756人中194人)

事業開始年度(H19)と次年度(H20)を比較すると、利用者が大幅に増加。今年度(H21)についても、全利用者に占める割合は前年度同様25%となっており、生活弱者や高校生にとっても当該バスが必要なものであることを伺い知ることができる。

② 予約利用者の割合

平成19年度	2.5%	(1,162人中29人)
平成20年度	8.4%	(866人中73人)
平成21年度	3.7%	(756人中28人)

利用者数は年々減少しているものの、予約利用者の割合はH20・H21年度とも、初年度の割合を上回っており、生活弱者や高校生同様、当該バスが地域にとって必要なものであることを伺い知ることができる。

③ 収入の推移

回数券の販売額を差し引くと…

平成19年度	214,600 円	⇒ (-80,000円)	134,600 円
平成20年度	140,600 円	⇒ (-10,000円)	130,600 円
平成21年度	117,000 円	⇒ (-6,000円)	111,000 円

収入額だけを見ると年々減少しているが、回数券の販売額を差し引いた額で比較すると、3つの年度ともほぼ同額となる。このことから、収入額の減少は、初年度に回数券を頻繁に購入していた方の利用がなくなったことが大きな理由であり、初年度から変わらず、一般混乗の需要は大きいことを伺い知ることができる。

④ 利用者の推移

平成19年度	1,162 人
平成20年度	866 人
平成21年度	756 人

利用者数は年々減少はしているが、一般混乗の100円利用者の割合、予約利用者の割合、収入の推移などのデータを鑑みると、当該がバス地域にとって必要不可欠なものであることを伺い知ることができる。

※平成21年度は全て見込みの数値